

国際理解教室指導計画

①目標

外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながらコミュニケーションの能力の素地を養う。

②ねらい

- 異文化に触れるとともに自国の文化に目を向ける。
 - ・新しい文化に触れ、違いを違いとして受け止める柔軟な姿勢を育てる。
 - ・日本との比較を通して異文化を知るとともに、日本の文化にも関心をもたせる。
- コミュニケーションを楽しみ、コミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。
 - ・I U I の指示や話を聞き、相手を理解しようとする態度を育てる。
 - ・気づいたことや想像したことを積極的に伝えようとする態度を養う。
- 英語に親しむ
 - ・英語での簡単なコミュニケーションを通して、英語への興味・関心や意欲を育てる。

③授業の進め方

(1) 方針および留意点

- 子どもにとって親しみのある文化を中心に進める。
 - ・子どもの身近にあり、実感をもちやすいテーマを取り入れる。
 - ・食べ物や学校生活の話題など身近で理解しやすいトピックを用意する。
- 英語からの直接的な理解を促す。
 - ・I U I は日本語で説明しない。
 - ・学級担任はなるべく日本語に訳さず、デモンストレーションを取り入れ、やり取りなどから類推できるようにする。
 - ・絵、写真、時には実物を見せ、英語と直接結びつける一助とする。
- 子どもの想像力や興味・関心を引き出す。
 - ・日本の文化と比較して、想像できるようにする。
 - ・一方的に説明するより、子どもが疑問に思ったり、考えたりできるような学習展開を工夫する。
 - ・子ども一人ひとりの反応を大切にする。
- 子どもが楽しめる活動を取り入れる。
 - ・子ども一人ひとりが関わり、楽しむことのできる活動を用意する。
 - ・説明を聞いているだけでなく、子どもが実際に体験できる活動を用意する。
- 学級担任とI U I とのチームティーチングで進める。
 - ・子どもの理解を促すような学級担任の出番を作る。
 - ・事前に打ち合わせを行い、学級担任とI U I との間で、授業展開などの共通理解をもつ。